

都市農業の特徴と役割を考えよう

LO6



3年社会「わたしたちのまち」「わたしたちの市」
 4年社会「わたしたちの県（都道府県）」
 5年社会「わたしたちのくらしと食料生産」

地域の特徴

高度経済成長期以降、ベッドタウンとして発展してきた小金井市においても、農業は地域を代表する産業として現在も維持・継承されています。その特徴は、地域の立地条件および自然環境と深く関わっています。市域の大半はもともと武蔵野台地上の水が乏しい条件下にありましたが、江戸時代の新田開発により、畑地・畑作が拡大しました（崖線・ハケ下のみは水田や一部わさび栽培もみられました）。高度経済成長期以降、農地・農家は減少し続けていますが、現在も畑作を中心とする都市農業の特徴が顕著にみられます。

江戸時代は大麦・小麦や陸稲・雑穀・芋類などが主に栽培されていましたが、江戸のまちの拡大や人口増加に伴い、自給的農業から次第に都市向けの小麦・野菜栽培などの遠郊農業が登場し、明治時代以降のさらなる人口増加や都市域拡大ならびに交通条件の発達（鉄道の開設等）により、近郊農業の発展がみられました。

1960年代以降、小金井周辺地域では都市化・人口増加がすすみ、農地は年々縮小し、農家戸数も減少しました。その一方で、各農家やJA・行政などの取り組み・努力により、現在も近郊農業地域として特徴的な都市農業^{※1}が維持されています^{※2}。生産緑地制度^{※3}の認定を受けた農地も多くみられました。



出典：東京学芸大学地理学会30周年記念出版専門委員会（1982）『東京百科事典』国土地理協会，p12.

※1 都市農業の特徴：通年で多種類・多品種の作物を栽培（30～40種類の野菜を栽培する農家も多い）。おもに野菜や果物、植木・花など。1戸あたりの生産規模は小規模であるが、単位面積あたりの生産性が高い集約的農業。無人スタンドや庭先販売による地産地消、観光農園などもある。

※2 小金井市の農業（2021年）：農地面積62.8ha（市域全体の8%、全農地のうち生産緑地が91%）、農家戸数127戸（うち販売農家112戸）、経営規模は50a未満が71%、年間農業所得200万円未満が80%

※3 生産緑地制度：市街化区域内の農地の多面的機能（緑地・生態系の保全、保水、災害防止等）に着目し都市環境の維持に役立つ農地を計画的に保全するための都市計画制度。1992年改正生産緑地で指定をうけた農地は営農義務が課される一方、固定資産税軽減や相続税納税猶予等を受けられ、都市内農地の維持に寄与した。指定制度が2022年に終了となり、農地転用の急増が危惧されたが、特定生産緑地制度が新たに創設され、多くの農地が維持される傾向にある。

住宅地の中に農地が分布し、年間を通して、身近に農業・農地を観察することができます。

近年は国・自治体において、農業・農地のもつ多様な機能が重視され、小金井市においても農業・農地の保全やコミュニティ農園の開設など、農業・農地をいかした新たな取り組みが活発になっています。

江戸東京野菜の栽培や復活もみられ、農家や住民団体、飲食店等による伝統野菜の継承や、地産地消、地域活性化の取り組みが行われています。

※小金井市で現在栽培されている江戸東京野菜: 亀戸大根・金町こかぶ・東京長かぶ・伝統小松菜・しんとり菜・のらぼう菜・伝統大蔵大根・馬込半白きゅうり・蔓細千成なす・小金井まくわ・馬込三寸人参・東京うどなど



出典: 農林水産省「都市農業について」

観測・観察方法や学習方法

1. 学校や自宅の周りにおける農地を観察してみよう

- 栽培されている作物とその種類、季節・時期による種類の違いをまとめてみよう。

※めずしい作物: ルバーブやハーブ、普段観察することは難しいが、土の中に大きな穴を掘り、真っ暗な中で白くてやわらかい「うど」を栽培している農家もある。

- 農事暦(一年をととした主な農作業)と畑の様子を観察してみよう。見た目だけでわからない作物については、本・資料やインターネットで調べてみよう。
- 「生産緑地」の看板を探してみよう。
- 農家の皆さんが工夫していることや気をつけていること、苦労やよろこびなどについて、話を聞いてみよう
(事前にご協力いただけるかお願いしてからがよい)。



(上) 住宅地にはさまれた畑(小金井市): 近世新田開発の短冊状地割りが残る
(下) 東京学芸大学周辺の植木畑(小金井市)

2. 農作物がどのように販売され 流通・消費されているか調べてみよう

- 農協直売所やスーパーの野菜売り場に地場産野菜のコーナーが設置されていることも多い。農作物の種類や、地区名・生産農家の名前・写真のポップおよび説明書きなどにも注目してみよう。
- 農家の庭先や畑の一角に無人販売スタンドが設置されていることがある。そうした販売方法をとるのはなぜだろう。生産農家あるいは購入する私たちにとってのメリットは何か。
- 市役所やJAに地元農業に関するパンフレットや野菜販売所の地図などがある。
- 自分の家で買った野菜・果物の産地を調べ、地元産のものがあるか、他地域・国が産地のものはどこからきたものか確認してみよう。
- 学校給食で地元の野菜がどの程度使われているか調べてみよう。
- 農家や農地に設置された「のぼり」や市・農協の広報誌・ポスター、webサイトなどをもとに、近年の農業に関する農家や地域の取り組み・活動とそのねらいを調べてみよう。

3. 江戸東京野菜の歴史や特徴、小金井市での 生産・販売状況や取り組みについて知ろう。

- 近くのスーパーや農協販売所で江戸東京野菜を見つけよう。
- 江戸東京野菜について、参考図書・資料やインターネットで調べてみよう。
- 東京都の他地域でも伝統野菜の栽培やさまざまな取り組みが行われている。各地の伝統野菜の特徴や

取り組みについてインターネットで調べてみよう。

- 国内には「京野菜(京都)」や「加賀野菜(金沢)」など、産地ブランドとして生産・販売されている伝統野菜がいろいろある。それぞれの歴史や種類、生産者の苦勞・工夫など、共通点と相違点をまとめてみよう。
- 伝統野菜を復活・継承することは、私たちや未来にとって、どのような意味をもつか考えてみよう。



出典:「こがねい庭先直売所マップ」

【グローブとの関連】

- ① 気候条件の変化と農業生産との関係
 - ・ 気温(最高気温・最低気温、降水量など)の観測結果と、地域内の作物の生育状況・収穫量・品質・価格などについて、市や農協、農家の人に話を聞いて、どのような関係があるか考察してみよう。
 - ・ 温暖化や冷夏・暖冬、集中豪雨・長雨などによる農業への影響や被害・対策などについて、農協や農家の方に話を聞いてみよう。
- ② 土壌条件と農作物の種類や品質、収穫量との関係
 - ・ 畑地の場所や土壌特性(温度・水分など)と農家が栽培する作物との関係や、作物の生育状況との関係について、JAや農家の人に話をきいてみよう。

関連資料

- 農林水産省(2022)「都市農業をめぐる情勢について」
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougoyo/attach/pdf/t_kuwashiku-31.pdf
- 小金井市 HP「農業」 <https://koganei-kanko.jp/farm/>
- 小金井市市民部経済課(2022)「小金井市農業振興計画(令和4年3月策定)」小金井市
https://www.city.koganei.lg.jp/kurashi/nogyo/nougoyoushinkou/nougoyousin_sakutei.html
- 小金井市市民部経済課企画編集(2022)『こがねい庭先直売所マップ』小金井市観光まちおこし協会
- JA東京むさし「管内(小金井・国分寺・小平・三鷹・武蔵野の各市)の農業データ」<https://www.jatm.or.jp/farming/index.php>
- 大竹道茂(2020)『江戸東京野菜の物語』平凡社新書
- 大竹道茂(2009)『江戸東京野菜 物語篇』・『江戸東京野菜 図鑑篇』農山漁村文化協会